

# 議事録

会議の名称	(番号) 1-06	令和5年度第1回墨田区廃棄物減量等推進審議会		
開催日時	令和5年7月10日(月) 10時00分から11時00分まで			
開催場所	区議会第2委員会室(区役所17階)			
出席者数	15人[委員] 萩原なつ子 見山謙一郎 井上佳洋 廣田健史 田中明美 丁官一郎 齋藤敬三 佐藤美帆 小木曾清三 牟田口雄彦 山田清子 橋本玲子 高橋正利 大門しろう 鹿島田和宏 [事務局]すみだ清掃事務所長 資源循環推進担当副参事 すみだ清掃事務所係長4名 すみだ清掃事務所係員2名			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	0人
議題	1 審議会委員の一部改選について 2 令和4年度資源物・ごみ排出量実績について 3 廃プラスチック分別収集・再資源化事業のモデル実施について 4 墨田区食品ロス削減推進計画について			
配付資料	資料1 墨田区廃棄物減量等推進審議会(第11期)委員名簿 資料2 墨田区の資源物・ごみ排出量実績 資料3 廃プラスチックの分別収集・再資源化モデル実施について 資料4 墨田区食品ロス削減推進計画について			
会議概要	1 開会 2 新委員紹介 すみだ清掃事務所長から、一部改選した第11期委員の紹介があった。 3 議事 (1) 令和4年度資源物・ごみ排出量実績について 事務局から、令和4年度資源物・ごみ排出量実績について報告した。 (2) 廃プラスチック分別収集・再資源化事業のモデル実施について 事務局から、廃プラスチック分別収集・再資源化事業のモデル実施について報告した。 (3) 墨田区食品ロス削減推進計画について 事務局から、墨田区食品ロス削減推進計画について報告した。 【(1)の報告に対する質疑応答、意見】 (委員) 墨田区は人口が増えてきているが、それが原因でごみの減量が計画ど			

おりにいかない等の懸念はないのか。

(事務局) 墨田区の人口は年2～3%程度増えている。人口増に伴いごみの排出量が増加する可能性があるが、第4次計画では人口増を踏まえた計画としている。

【(2)の報告に対する質疑応答、意見】

(委員) 回収したプラスチックはどこに運び、保管・再資源化するのか。また、収集車両は何を使用するのか。

(事務局) 区が収集したプラスチックは中間処理施設に運び、リサイクルできないものを取り除いて押し固めて保管する。その後、リサイクル工場に運び再資源化する流れである。リサイクル工場は墨田区内にはないため、関東地方内の工場へ運搬する。また、廃プラスチックの収集にはプレス車を使用する。

(委員) 廃プラスチックの再資源化業者は既に決まっているのか。

(委員) モデル実施については、中間処理から再資源化のプロセスまで、区が独自に契約しなければならず、プロポーザルを実施したところであり、現在選定中である。

(委員) モデル実施中は集積所に出されたごみはすべて回収するとのことだが、明らかにプラスチックではない生ごみや、粗大ごみが出された場合でも回収するのか。

(事務局) プラスチックの日に排出されたものをすべて回収するのは、排出状況を把握するためであり、ご指摘のような排出状況であった場合は、モデル実施期間の後半あたりから、適正な排出のための指導等を行っていくことも検討している。

(委員) プラスチックの分別を自分で一週間実施してみたところ、プラごみはかなり多く、逆に燃やすごみは少なかったため、プラスチックの日を増やすのはどうか。

(委員) コストの面で考えると、プラスチックの再資源化には中間処理で多額の費用がかかるため、難しい。

(委員) プラスチック資源として回収できないものの例として「軽くすすいでも汚れが付着しているもの」とあるが、判断が難しい。AIの画像認識等の導入も考えていく必要があるのではないか。

(委員) すでに廃プラスチック分別収集をしている他区の人からは、汚れを洗い流す水がもったいないから燃やすごみとして捨てているという話を聞くので、汚れの目安や洗い方などを正しく周知することが大切ではないか。

(委員) プラスチックを新たに分別することで、マンションなどで保管場所の確保が難しくなるのではないか。

(委員) 行政でマンションの保管場所を増やすということは難しい。コロナで手洗いや消毒が根付いてきたように、プラスチックの分別もあたりまえ

になればよいと思うし、行政としても何ができるのかを考えていく必要がある。

( 委 員 ) 事業系有料ごみ処理券の値上げの通知を各商店街に出したところ、事業者から「プラスチック再資源化のため値上げをするのか」と疑問の声もあった。

( 委 員 ) 事業系有料ごみ処理券の価格改定のタイミングと廃プラスチック分別収集のタイミングが重なったものであり、廃プラスチック分別収集のための値上げではない。事業者にご理解いただけるよう、周知していく。

( 委 員 ) プラスチックに値札やラベルがついたまま出す人も多いと思われるので、周知を徹底するべきではないか。

( 委 員 ) プラスチックの再資源化にコストがかかるとのことだが、23区のごみの有料化の動きについて何か動きはあるのか。

( 委 員 ) 23区の中でごみの有料化の議論は進んでいない。

( 委 員 ) 処理をする側の静脈からつくる側の動脈に戻す「静動脈連携」が大切で、廃プラスチックを処理して終わりではなく、循環していることを区民に理解してもらうために可視化してほしい。また、プラスチックの再利用の新しい技術をベンチャー企業と実証していくなど、大きな仕組みとして産業界との連携も考えていくと良いのではないか。

#### 【(3) の報告に対する質疑応答、意見】

( 委 員 ) 食品ロス削減推進計画の目標は家庭系食品ロスが対象となっているが、計画の位置づけの図にある「地域・産業観光」などは事業系ではないのか。

( 委 員 ) 区役所から事業者にアプローチをして変化を求めることは難しいため、この計画の目標値は家庭系の食品ロスを対象としている。墨田区としては家庭系へのアプローチ、そして東京都と連携しながら事業系についてのアプローチも視野に入れ、計画全体としては「地域・産業観光」などの分野も巻き込んでいきたいと考えている。

( 委 員 ) 食品ロスを2000年度比で2030年度までに半減とあるが、数値を教えてほしい。

( 委 員 ) 墨田区では食品ロス量の推計について毎年は行っておらず、直近の2017年の組成調査の結果や東京都のデータ等から推計する必要があり、現在は数値の精査中である。

( 委 員 ) 食品ロスが発生する前提で考えるのではなく、どのようにして食品ロスの発生を抑制するかが重要。賞味期限を管理するアプリもあるので、そういったアプリ等の利用を推奨すれば、食品に関する知識が増え、食品ロスを水際で防ぐことができるのではないか。

( 委 員 ) 高齢者など小食な人に向けて、量を少なくした料理の提供や弁当の販売などの取り組みがあればよいのではないか。

	<p>3 その他 事務局から、次回審議会は現在のところ未定である旨の説明があった。</p> <p>4 閉会</p>
所 管 課	資源環境部すみだ清掃事務所管理・計画調整係 (5608-6706)